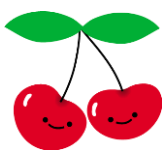


さくらんぼ



～やさしく・かしこく・たくましく～

NO. 8 平成30年12月20日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

12月14日、子どもたちが待ちに待ったクリスマス会がありました。クリスマス会では、附属中学校弦楽合奏部による演奏を聞いたり、みんなで歌を歌ったり、星組さんが劇や合奏を披露してくれたりしました。楽しいひとときを過ごしていると、サンタクロースから手紙が届きました。『女神さまを手に送ってみんなのところにいくよ』という手紙を副園長先生が紹介してくださいました。そのあとすぐに暗くなり、美しい女神さまがキャンドルを手にし、道筋にキャンドルを灯してくださいました。すると、その灯りを手がかりにサンタクロースが登場しました。子どもたち一人一人にプレゼントを手渡してくれ、「あわてんぼうのサンタクロースを曲に合わせて踊ってくれました。

子どもたちにとって忘れられない楽しい会となりました。附中生やいろいろな協力をしてくださった方々に支えられて会を終えることができ、子どもたちは本当にたくさんの人に見守られて成長しているのだなと実感しました。保護者の方々も異なる時間帯でのご協力ありがとうございました。



“ワクワクドキドキ” クリスマス会

花組は、初めてのクリスマス会をそれぞれに想像しながら、ずっと楽しみにしていました。演奏や劇を観ている間も、いつサンタクロースが来るのか気になってソワソワ…いよいよ女神さまが登場すると、「きれーい…」と、うっとり。サンタさんが登場すると「わあ！3人も！！」と大興奮！サンタさんから「OOちゃん、どうぞ」と、やさしくプレゼントを手渡されると、皆、顔をほころばせていました。

風組は、クリスマス会の一週間前から「あと何回寝たらクリスマス会？」「早く来ないかな？」と友達同士で話していました。クリスマス

会後お部屋に戻ろうとした時、涙を浮かべている子どもがいました。「先生…サンタさんが来てくれてとっても嬉しかったの。」と声を震わせ、サンタクロースからもらったプレゼントをギュッと抱きしめながら話してくれました。その姿を見ると、子どもたちが喜び姿を想像しながら大人が本気になって準備をするクリスマスという行事は、とても温かくて素敵な行事だなと感じました。
(植村・福田)

年長のみんで進める劇



クリスマス会では、星組が出し物として劇をすることが恒例となっています。その年の星組の子どもたちがやりたいことやアイデアを出し合い、相談しながら進めていきます。どんな役になりたいかどんな話がいいかなど、始めはそれぞれがやりたいことを言い合っかなか決まりません。決まらなくても保育者が中心で決めるのではなく、みんなで相談した「それいいね！」をつなげながら少しずつみんなの劇になるように支えていきます。



大まかな話が決めればセリフがきちんと決まっても劇遊びが始まります。繰り返し楽しむ中でだんだんと話が形になり、必要感から大道具や小道具をつくったりセリフが共有されたりしていきます。始めは役を決めかねていたり、参加したからなかったりする子どもも次第に自分なりの役割を見つけて参加していきます。

今年の星組もそのような流れを踏み、クリスマス会で風組や花組に披露しました。その劇に至るまでの様子をお知らせしたいと思います。

降園前の集まりの時間に「今年の星組さんがしてくれたように、今度はみんながクリスマス会で何かしませんか？」と話しました。今年の星組が見せてくれたアイドルやドクターヘリが出て来た劇のことをよく覚えていて「劇をしたい。」という声ですぐに女児から上がりました。「どんな劇をしたいか考えておいて、みんなで相談しよう。」と投げかけるとすぐに、「魔法使いが出てくる劇がいい。」「探検する劇がいい。」「サンタクロースも出たら？」など思いついたものを言い合っていました。S子が「私はお姫様になりたいからお姫様の劇がいい。」と言うとA男が「女の子はお姫様が好きだけど、男はお姫様とか好きじゃないから嫌だ。」と反対しました。他の男児も「お姫様とか嫌だ。」と同意しました。するとY子が「男の子は王様になったら？」と言ってくれましたが、「そんなのは嫌だ」と男児達は受け入れません。保育者が男児に何になりたいか言うように促すと「動物ならいい。ライオンとか。」「サンタクロースならいい。」と意見は出ましたが男児はあまり乗り気の様子ではありませんでした。どんな話がいいかまた相談することを話し降園になりました。

翌日の弁当時、女児たちは劇の話をしていました。K子が話を考えて来ており友達に伝えていました。それをみんなに提案するように促しました。話の流れは幼稚園で遊んでいたら穴に落ちて不思議の国に行き、困っていたら魔法使いが助けてくれて、ほうきに乗せて連れて帰られるものでした。それを聞いていたR男が「何で穴に落ちたんですか？」

と尋ねました。「ドングリで遊んでたら落ちた」K子が答えると「そういうことか。」と男児が納得しました。園庭で大量のドングリを集めていた経験と重なったのでしょうか。S子が「ドングリじゃあ小さすぎて見えないんじゃない？」と言いました。劇で見せることを考えてのS子の発言であることを保育者は受け止め「とっても大きいドングリを探していたことにすれば？」と提案しました。すると男児が「卵ぐらい？」「サッカーボールぐらいは？」などと面白がって両手で大きさを示し合い、「ドングリつくる！」と言う声もあがりました。

ドングリと一緒に穴に落ちるという話の方向で相談が進んでいると、「お姫様は出ないの？」という意見が出ました。「大きなドングリはお姫様の宝物だったことすればいい。」という意見に皆が賛成し、「サンタクロースになりたいんだけど。」という思いは、大きなドングリはサンタクロースがお姫様にプレゼントしたものだだったことと、子どもたちがいい子だったので最後にサンタさんがプレゼントをくれることで着きました。

翌日にはお姫様達は自分達のお城の絵を大きな紙に描き始め、誰に王様役になってもらうかも相談していました。その日の降園前には早く劇がしたい女児グループの提案で、やりたい人でこんな劇はどうですかという提案の劇をすることになりました。お姫様が出てくる劇は嫌だと乗り気でなかった男児3人も集まって間に合わそうと急いでライオンの絵を描き、お面をつくっている姿が見られました。

クリスマス会まで劇遊びを繰り返す中で、話や配役が変わりながら星組みんなですすめ、形になっていきました。
(高田)

クリスマスの曲紹介「うさぎのはらのクリスマス」

クリスマス会で「うさぎのはらクリスマス」を歌いました♪子どもたちがお家でも口ずさむことがあるのではないのでしょうか？お家の方から「うさぎが出てくる歌を歌っているのですが本当の歌詞ってどんな歌詞なんですか？」とよくご質問をいただきます。とってもかわいい曲なのでぜひご家庭でもこの曲を楽しんでください！

うさぎのはらのクリスマス

作曲：新Rとしひこ 作詞：中川ひろたか

うさぎのはらの こうさぎたちは
そらにかがやく ほしをみながら
サンタクロースに おいのりしてるよ
おみみをつつむ ほうしをください
ラララ ほしはキラキラ とおくキラキラ
まどのおこうから ウィンクしてる
きっとねがいが かないそうな
うさぎのはらの クリスマス



編集：福田